

披 萃

故に

$$y = M - x$$

五三八

R 及び F か四位以上の數なる時は第二解法最も便にして第一解法を用ふる時は頗る煩雜となるへし、而して精密なる結果を得んには少くとも小數點以下四倍まで計算することを要す。

(Eng. News, Dec. 10, 1914.....F.)

土 木

○軌條の重量と其延長との關係を表はす表 此處に記載せる表は軌條の重量及其の延

長を求むるに當り頗る便利なるものにして第一表は三十五封度より百二十封度軌條に至るものに一呎當りの重量を噸にて示したるものにして或る區間に於ける軌條の總重量を僅少なる加算によりて得るものなり、第二表は使用すへき軌條の總重量に依りて之を敷設し得へき長さを求むるに用ひらるものにて單線の場合を示せり、今此の使用法を説明せん、八十封度軌條の延長四千二百三十七呎あるものの總重量を求むるには第一表に於て先づ八十封度と記せる行に於て四千呎の列より四七噸六一九〇を得へく次に二百呎の列より二噸三八一〇を三十呎の列より〇噸三五七七一を七呎の列より〇噸八三三を得へく然る時は此等四者の合計五〇噸四四〇四は求むる所の重量なり、次に總重量二千六百五十二噸の九十封度軌條を以て布設し得可き單線路の延長を求むるには第二表に於て先づ九十封度と記せる行にて二千噸の列より一四哩二四一四を六百噸の列より四哩二四二四を五十噸の列より〇哩三五三五を二噸の列より〇哩〇一四一を得へく此の四者の合計一八哩七五一四は求むる所の延長なり、而して此表は小數點下四位迄取りたるに依り數回の加算をなすとも此れによりて生ずる誤差は實際上何等の影響を與ふる事なし。

(Eng. Record May 20, 1916.....a)

○北米合衆國に於ける軌條の製産高 紐育の (American Iron and Steel Institute) にては軌條を